

## 事業報告書（令和7年度）

事業名 岡山で多文化共生を考えよう

団体名 ダフェプロジェクト 担当者名 江見優子

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

<b>1. 活動内容（日時、場所、講師、参加対象者、人数、内容等）</b>
日時：令和7年7月12日（土） 場所：一般社団法人SGSG（岡山市北区奉還町3-1-30） 講師：小林麻衣子さん（アムダマインズネパール事務所事業統括） バスネットナバラジさん（岡山ネパール人協会代表） 参加対象者：学校関係者、国際貢献活動団体関係者、一般 人数：15名 内容：小林さんにはコーヒーの栽培支援を指導した立場から、コーヒーを通してみることできた農村地域の暮らしやネパールの抱える課題、日本とのつながりなどについてお話をしていただいた。 また、在日（在岡）20年のバスネットさんからは、どうして今ネパール人が日本に多く住んでいるのか、人数が増えることでどんな問題がおきているのかなどを聞くことができた。
<b>2. ESDの視点</b>
① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか 特に近年増えているネパール人や、ネパールのことを知りたいと思って参加してくれた人が多かった。実際にネパールに長く駐在をしていた小林さんや、日本に20年以上も住んでいるネパール出身のバスネットさんの話を直接聞くことで、リアルなネパール像がイメージできたのではないかと思う。
② どのように学び合いを取り入れたか 多民族多宗教の国であるネパールは、ある意味日本より多文化共生が進んでいるといえる。考え方や習慣の違う人々がどのように折り合いをつけて暮らしているのかを見聞きすることで、岡山という地域社会に暮らす私たちはどのような心構えで多文化共生にむきあったらいいのかを考えるきっかけになったのではないかと思う。
③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか 実体験を基にした話を聞くことでより正しい情報を得ることができた。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

年度後半に予定していた交流事業は学生の参加が見込めないため中止し、別途行政書士の先生による在留資格の講演会を行った。（合同会社ダフェプロジェクト主催）事業を通して日本人と外国人（ネパール人）がお互いを知る機会になったらいいと考えたが、実際にはすでに関心のある方々の参加にとどまってしまいそれ以上に広がらなかったのが残念だった。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

多文化共生を切り口に ESD と関わってきたが、外国人市民が増え続けている昨今、良くも悪くも岡山市は多文化共生社会になってきていると感じている。

毎日ネパール、スリランカ、バングラデシュ、パキスタンの留学生と接していると思うことは、日本が好きで日本語も熱心に勉強している学生はほんの一握りで、とにかく母国よりもより良い生活を送りたいということのみ考えている人が多いということである。

それは勉強よりもバイトに精を出している生活をみれば一目瞭然である。また学校を卒業後、特に岡山に思いをはせることもなく他県の専門学校に進学もしくは就職していく様子をみるにつけ、なぜ岡山に居続けてくれないのか、なにが岡山に足りないのかを考えざるを得ない。

ここ数年岡山市内の日本語学校、大学の別科などが積極的に東南アジアの学生を入学させているが、人数ありきで入学させているためか、学習意欲のない学生やバイトにすら行ったり行かなかったりしている学生などもおり、何をしに日本にきているのか首をかしげることもしばしばである。そしてそういった学生が成績不良で退学させられそうになったとたんに助けを求めてきて泣いて叫んで大騒ぎしても、こちらとしてはどうにもしてあげられないのが現状である。

他にも日本生まれの子は日本で生まれているがゆえに、自分の国の言葉がわからなかったり（聞く話すはできるが読む書くは致命的）日本語も思うほど学力がなかったりと、これはこれで悩ましく、現在は親の扶養内で日本に滞在することができているが（いわゆる家族滞在ビザ）将来親がいなくなっても滞在しつづけられるように在留資格を変更していくのか、はたまた最終的には帰国するのか、子どもたちを取り巻く多文化共生も問題は山積みで、サポートもケースバイケースになってしまうのが悩みの種である。

またニュースなどでも取り上げられている給食のハラール対応や土葬の許可の問題など、すべてを許容するのではなく「No」ということも時には必要なのではないかと考えたりするきょうこのごろである。

最近では「多文化共生」という言葉が、独り歩きしてしまい、いいイメージよりネガティブなイメージを持つ人もいるようで、やみくもに「多文化共生を推進しましょう」と言えない雰囲気があるように感じる。住みよい地域社会を築いていくためにはなにが必要なのか、今一度考える必要があるのかもしれない。



岡山ESDプロジェクト参加事業

# 茶色くなる前の コーヒー豆のおはなし

のびのびのコーヒーを通して見るナパール農村地域の暮らし、ナパールが抱える課題、そして日本とのつながりのお話を聞いてみませんか？

年 **7** 月 **12** 日 (土)

時間 13:30~15:00 (30分前受付開始)

対象者 どなたでもご参加いただけます

参加費 無料 定員 20名 (要事前申込)

会場 一般社団法人SGSG (岡山県岡山市北区春遊町3-1-30)

申込方法 申込フォームからお申し込みください。  
メール又はお電話からも申し込み可能です。

お問い合わせ メール: danfeiproject2998@gmail.com  
電話: 080-4267-4787 (直通)

講師 Maiko Kobayashi  
小林麻衣子 さん  
アムザインズナパール事務局 事業部長

ゲスト Basnet Navaraj  
バスネットナバラジさん  
岡山ナパール人協会 代表

主催: タフェプロジェクト 協力: 特定非営利活動法人SGSG



(様式第8号)

